



【上】川下りの安全を祈願した後、新町水門の板を1枚ずつ取り外した【下】水門の板を外すと、きれいになった掘割に水が音を立てながら勢いよく流れ込んだ



【右】舟上から見える掘割の石垣を丁寧に清掃する川下り業者【左】歩道の植え込みなどを参加者が一斉に作業した【下】一斉清掃によって1時間ほどで2トントラック約15台分のごみを回収した



【上】早朝から約2000人が参加した「柳川“堀と道”クリーンアップ大作戦」。掘割や歩道などを手分けして清掃した【下】子どもたちも大人と一緒に作業した



【上】6枚の板でせき止められた新町水門【左】掘割の水を抜くため、二丁井樋を開けた【下】2、3日で水位が下がり、川底が顔を出した



「水落ち」とおもてなしの「心」で春の柳川へ

春の観光シーズンへ向け柳川の準備、整いました

江戸時代から続く柳川の伝統行事「水落ち」が、2月25日から3月6日まで行われました。水落ち期間中に実施された「柳川“堀と道”クリーンアップ大作戦」には、約2000人が参加して、掘割の底や周辺の道を一斉清掃。3月6日には、きれいになった城堀に水が流され、待ちわびた本格的な春の観光シーズンの到来を告げました。

水落ちで掘割をきれいに

2月25日、旧城下町地区の掘割に、二ツ川から水を引き込む新町水門が、6枚の板でせき止められました。この後、稲荷町の二丁井樋（水門）が開けられ、掘割の水を沖端川に排水。年に1度、水が抜かれた掘割で、川底の清掃と日光消毒をする「水落ち」が始まりました。

柳川に張り巡らされている掘割は、水の流れがとても緩やかです。そのため、掘割の底には、細かな泥やごみが堆積していきます。そこで柳川の先人たちは、水落ちを行うことで、掘割の環境を守ってきました。

掘割や道をみんなで一斉清掃

柳川を訪れる人に気持ちよく川下りやまち歩きをしてもらおうと、水落ちの期間中に堀と道をきれいにする「柳

川“堀と道”クリーンアップ大作戦」。3回目の今年は、3月3日に実施され、市内の団体や市民など約2000人が参加しました。参加者たちは、あめんぼセンターや沖端水天宮周辺を中心に掘割や路上の草を刈ったり、ごみを拾ったりして清掃に汗を流しました。午前8時から1時間ほどでペットボトルや空き缶、雑草など2トントラック約15台分が集まりました。

きれいな柳川でおもてなし

3月6日、掘割に水を引き入れる「お堀開き」が行われました。関係者が見守る中、新町水門にはめ込まれていた板が取り外されると、きれいになった掘割に水が音を立てながら勢いよく流れ込みました。昔ながらの伝統とおもてなしの心できれいになった水郷柳川。本格的な春の観光シーズンを迎え、訪れる観光客をもてなします。

